燃ゆる大空[[1]](#footnote-1)

一、二、三したぞ。今日こそは地に歸つて三度の返りが出來るんだぞ。彼は年兵だ。がきた、さあ歸らう。、のからのしぶき。の出で無にい。然し　陛下の行だ、大和男の子の體だ。彼はでしつかりとハンドルをつてゐる。地では彼のがふわりふわりんで來るのをめてゐる。負だ。長はんだ。三度の返りもやつた。着陸するとは事切れた。の魂はアジヤの大にえている。（山光郎）

1. 1940年10月19日付『京城日報』コラム「明滅燈」に掲載された。 [↑](#footnote-ref-1)